

「日々の理科」(第1497号) 2018 (H30), -8, 12

「ペルセウス座流星群」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

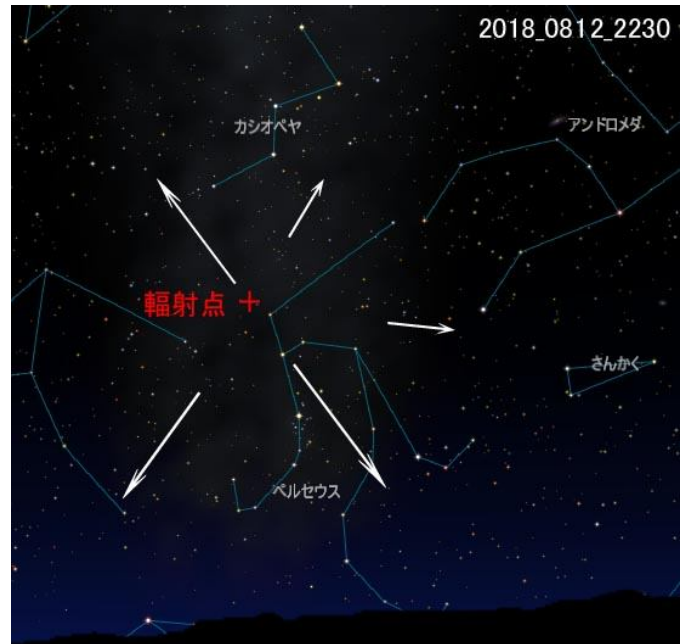
田中 千尋 Chihiro Tanaka

今日(8/12)の夜から、明日(8/13)の未明にかけて、ペルセウス座流星群が極大を迎える。地球は、太陽の周囲を毎年ほぼ同じ軌道で公転している。決まった時期に、塵の多い場所を通過する。塵の正体は、彗星の尾が残したダストだ。8月には、ちょうどペルセウス座の方向に塵が飛び込んで来る。

ペルセウス座は、カシオペア座の「W」の左側にある。つまり「ここ→+W」あたりから、流れ星が放射状に飛ぶことになる。流星群は他の季節にもいくつもある。ふたご座流星群、しし座流星群などが有名だ。しかし、ペルセウス座流星群は、夏の夜更け～明け方に見え、飛ぶ数も多いので、非常に観察がしやすい。

塵の元になる彗星(母彗星)は「スウィフト・タートル彗星」である。この彗星は33年周期で太陽に近づ

くので、その周期に合わせて「新たな塵の供給」が行われ、大流星群になると言われている。



明日の明け方が一番良いのだが、今夜は月明もなく、22時頃からペルセウス座はよく見えるようになるので、晴れていたら是非その方向を観望していただきたい。アンドロメダ星雲も近くに見える。

